

第2回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

平成27年9月28日(月)9:30~12:00

南魚沼市役所本庁舎大会議室

1.開 会

(進行:熊倉委員長)

これより委員全員の出席により第2回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議を開催する。

2.市長挨拶

(市長)

全員が出席していただき、第2回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議が開催できることを感謝申し上げたい。

第1回の会議では、各委員から貴重な意見とご提言をいただいた。それらをまとめながら、次のステップに進んでいくための第2回推進会議であるので、以前に増して活発なご意見をいただきたい。10月の最終会議に向けて案としてまとまるようにご協力願いたい。

3.会 議

(1) 議 事

(進行:熊倉委員長)

事務局からの説明の前に本日の会議の位置付けを確認したい。

前回、初めて集まってもらい、南魚沼市がいかに魅力的な地域になり、内外から人々が集まってくれる地域になるかについて、それぞれの立場で意見やアイデアを出してもらった。そして骨子もしっかりできてきた。その場を出し切れなかったり、さらに深掘りしたり意見やアイデアもいただき、それらを事務局で集約や事務局側の宿題となったものを資料として用意したので、まずはそれについて事務局より説明して欲しい。

その説明を受けて、さらに意見やアイデアをいただきたい。

この会議の場はあくまで意見やアイデアを出したり、それを整理したりする場である。総合戦略は市として策定するものなので、本日の成果を受けて、次回まで事務局側でさらにつめた案を作成してもらいたい。

①事務局からの資料説明について

(事務局)

資料1、資料2、事前配布資料により説明

②総合戦略の策定について

まずは、前回会議の議論を補強するような意見について委員から伺いたい。会議後に付け加えの意見(深掘り意見)をいただいた方以外の方から順に伺うこととしたい。

子育て支援や少子化対策、地域に誇りを持たせる部分について付け加えの意見がなかったようだ。その部分で意見をお願いしたい。

藤ノ木委員	<p>子育てについては、本市の保育園等の評価は高いと思うが、保育費の負担割合の改善が必要だと思う。現状では所得に応じた負担となっているが、今後の若い人達のことを考えると、所得の高低だけではなく、仕事をしながら子育てする意欲がわくような仕組みにした方がいいと思う。つまり、3人目の子どもの保育費をゼロにするなど、働きながら、より多くの子どもを産めるような負担割合の改善があるといいと思う。</p>
矢口委員	<p>今日の資料（地域の産業・雇用創造チャートについて）を見ると、農業や宿泊業のバランス力が高くなっているが、これらはいずれも土・日曜日が仕事になる業種である。土・日曜日働きながら3歳未満などの子どもの子育てができるように子育て支援の見直しをして欲しい。</p>
熊倉委員長	<p>資料からこの地域は農業・宿泊、観光業に従事している人が多いのは明らか。前回、M字型就業について問題提起がされたが、土・日曜日に安心して仕事ができるような子育て、あるいは介護に対応する対策が必要ではないかという意見なので、そのポイントを意識して総合戦略等を考えるべき、策定においては5年という中で対策とするのか、もう少し緩やかに変えていくのかは市の中で検討願いたい。</p> <p>次に地域バランスや特性について議論したい。</p> <p>CCRCを含め、基幹病院や大学があって意識が大和地区に向き、（六日町地域は本市の中心的位置付けが思い浮かぶが、）観光やスポーツ、リゾートマンションがある塩沢地区なども含めて考えて行く必要があるのではないかと、意見を求める。</p>
岩佐委員	<p>都市のコンパクト化や中心市街地の活性化という点から、市内にある主な3つの駅の駅前をどうやって利用していくのが重要。まちのカラーを付けるとすると、例えば、浦佐駅は新幹線駅として働く人と高齢者にやさしいまち、塩沢は文化を中心としたまち、六日町は商業と飲み屋のまちというように、まちの特性を強化していくことによって、それぞれのまちの魅力が増し、3つの駅が個性化していくのではないかと。</p> <p>また、CCRCで言うと、湯沢町にはマンションがたくさんあるので、湯沢町とは違ったまちづくりをしないといけないと感じている。</p>
樋口委員	<p>浦佐駅周辺で考えると半径2キロの中に何でもあると言いながらも、便利に移動できる交通手段がなかなかないのが現状。高齢者にやさしいとか医療のまちに特化するのであれば、そういった事も必要。</p> <p>湯沢町に住んでいるものの印象としては、マンションはたくさんあるが、それほど多くの人 coming という印象はない。</p>
熊倉委員長	<p>湯沢町と塩沢の一部にはマンションがあり、空き家対策という点で、マンションというものをどう活用していくのかということも一つの課題として捉えたい。</p> <p>次に、前回十分に時間が取れなかった浦佐駅のシェアオフィス等の活用について意見を願います。</p>
関副委員長	<p>浦佐駅周辺は病院やCCRCといった注目を集めている施設があり、いろいろなイベントの開催もあり、土地も広大で広いので、まちづくりを進める上で起点</p>

	<p>になるには良いところだと思う。新幹線の駅を活用していない地区はそれほどない。そんな中で、浦佐駅にスポットを当て、まちづくりを考えるのは良い機会。</p> <p>具体的には（特に若い世代の）Iターン・Uターンを促進するためには、高校（卒業）生のうち、こちらに就職するのが1000人中200人で、800人が外に行ってそこから帰ってくるのが150人くらい、650人位は帰ってこないという現状の中で、帰ってこないのは「職がない」というのが一番の原因。（雇用を生む）地域の企業の成長も難しい中で、良い条件での企業誘致も必要。誘致する上で一番の問題となるのが、「雪」対策。浦佐駅構内の空きスペースを利用してオフィスにすれば、雪の心配もなく、革靴で通勤してそのまま仕事ができる。JRの意向はわからないが、レベルの高く魅力のある企業のオフィスとして活用できれば、若い世代のIターン・Uターンにもつながるのではないかな。</p>
熊倉委員長	<p>かなり大きな問題提起だと思う。浦佐駅の活用について、金融のプロの目から見てもどうか。</p>
塚野委員	<p>インターネットやソフトウェアの企業は東京にいる必要がないので、地方に移転しているケースがある。出来れば通勤するというより、住んでいただくのが理想。その第1歩としての浦佐駅の着眼に加え、全体が整合するような総合戦略を作って取り組んでいく必要がある。そうでないと単発で終わってしまい全体の活性化につながらない。</p> <p>産業を誘致するのであれば、どういった職種の企業を誘致したらいいのか、それによって人や仕事はどう動くのかまで議論しなければならない。</p> <p>この地域の基盤産業に関連した産業（観光など）の誘致がポイントと思われる。</p>
熊倉委員長	<p>国が進めるIT産業の地方への移転という柱に加え、地域の基盤産業（農業と宿泊業）の展開に繋がるような事業者・企業の誘致と、それが定住できるような住環境の整備をもう一つの柱として捉えたい。</p>
坂井委員	<p>（交通の面から）浦佐駅の活用を第一に考えるとして、それをどのように地域全体に波及させるかが重要だと思う。浦佐駅からの交通の不便さ、また、湯沢駅からの交通の不便さがある。</p> <p>（私を例にとっても）新幹線通勤できない理由は、浦佐駅に降りて、そこから先の交通手段がないから。「その先を」と考えた時に二次交通の問題がクローズアップされてくる。</p> <p>また、農業と観光に関連した企業（の誘致）を考えた時に、海外への販路や、海外からのお客を考えることも必要。</p>
武井委員	<p>外国人を受け入れて対応していくためには、多様性を理解するという点、外国語を理解するという点において、これを充実させるには、民間に任せられる部分もあるが、教育という部分で、ある程度自治体が方向性を打ち出していかななくてはならない。幼稚園・保育園・小学校・中学校は長距離を通うのが難しい。そういった段階から国際化という部分を特色として市全域で取り組んでいくことが大事。</p> <p>資料2（東京の魅力的な理由）にある「芸術や文化に触れる機会が多い」「教育や生涯学習の場に恵まれている」「国際性豊かである」などは、南魚沼市にも当</p>

	<p>てはまると思う。日常生活の中で「多様性」や「外国語」に触れる機会を設けることにより、農業や観光業の海外への売り込みにつながると思う。</p> <p>地元の良いところ、誇りになるところの教育と併せて行っていくことで、企業誘致や県外、あるいは海外からの移住してくる人達が増えると思われる。</p>
矢口委員	<p>白馬五竜のように周囲に目立つ観光地がないところでもインバウンド化されているので、(私が旅館を営んでいる) 上越国際もインバウンド化をしたいという思いがあるが、(周囲の声として) 言葉の問題がある。国際大学等の協力(例えば夏休み期間の学生のホームステイ等)により、言葉のレベルアップや受け入れ態勢を構築出来たらよいと思う。</p>
武井委員	<p>国際大学の「学生」という資源を活用して、例えば観光業の方を対象に研修を開催するなどが考えられる。ただ学生は観光業のスペシャリストではないので、市や市民の方々と連携しながら進めていくことが必要。市の実情に合わせたそういった取り組みは大学としても協力できる部分。</p>
熊倉委員長	<p>当地域では農業、宿泊業のほかに総合工業業や鉄道業も雇用が多くある重要な産業となっている。これからの雇用を増やすという部分で意見を伺いたい。</p>
羽吹委員	<p>建設業は人が減っているというのが現状。業界で取り組んでいることとして、塩沢商工に土木科を設置してもらいたいという働きかけで、今年4月から機械システム科に土木系の科目が追加された。7人の履修者がいる。外に出て戻ってこないという状況になる前に、また、いきなり業界に就職してもうまくいかないという点で、高校の授業で土木コースを学べることを考えた。中学校の生徒、父兄に対し説明会を開催する等、業界で建設業のイメージを変える取り組みを行っている。高齢化社会の中で地域を守る仕事としてイメージを変えていきたい。</p>
大谷委員	<p>北越急行には社員が70人、うち南魚沼市民は30人位であり、家族を含めて100人位が市内の関係者と思われる。基盤産業として「鉄道業」の値が高いが、スキー場のリフトなどの「索道」が多く含まれると思う。</p> <p>自分は以前、社員の採用を担当していたが、採用試験時に北越急行に入りたい理由を聞くと、鉄道好きというよりも、「地元に戻ってきたい」というのが9割以上であった。親は子供に「帰ってこなくてもいいよ」と言うという意見もあったが、東京と同じ収入が無くても、こちらであれば同等の生活ができる。若い世代に、本当は帰ってきてほしいと言う(内なる声を出せる)姿勢に転換する時期に来ているのではないか。北越急行が果たした役割を考えると、堅実に当たり前のことを当たり前にやる、低成長期に入ってだいぶ経過しているので、よその力を当てにせず、自分の足元を見つめ直してみるのも大事。そこからアイデアが出てくると良いと思う。</p>
熊倉委員長	<p>「孫を連れて帰ってきて」という内なる声を出せる環境は大事。地方創生のなかで地方の内なる声として、そういった声が出せるようになってきたことは地方創生の成果。そういった声を外部で発信していくための意見を伺いたい。</p>
高橋委員	<p>前回、周りの人達が南魚沼市の文化にあまり興味がないようだという話をしたので、改めてまわりの人達に話を聞いてみたところ、例えば石川雲蝶(うんちょう)という有名な彫刻家がいる、開山堂(魚沼市)という作品が見られる素晴ら</p>

	<p>しい場所もあり、東京の人を連れて行くと感激してまた来たいと言うが、地元の人は一歩行けばもうよいと言う。これは根気強く訴えていくことが大事だと思う。昨年は200周年で県が力を入れ、地元も盛り上がりが見られたが、今年になってあまり聞かなくなった。1年だけの盛り上がりで終わらず、思いを続ける必要があると思う。</p>
熊倉委員長	<p>一度のイベントをきっかけに継続性が確保できることもあるが、歴史や文化的なイベントの多くは「〇周年」などで活動が途切れやすい。兼続公も継続性が確保できているとは言えないと思う。どう工夫したら継続性が確保できるか。意見を伺いたい。</p>
岩佐委員	<p>どういうイベントであれば人が呼べるかという話を考えると、芸術や文化に興味を持つ人は残念ながら少ないと思う。越後妻有の大地の芸術祭も芸術だけを売りにしていたら人は来ないと思う。人との触れあいがあるから人がくるのだと思う。</p> <p>現在、マラソンイベントが人気であるが、これは走る場所があればよいのであって、その土地に魅力があるからではないと思う。これを勘違いすると怖い。インバウンドも同様で、全国的に観光客数が増えているので、どの地域も増えるのは当たり前である。新潟県も増えてはいるが、伸び率を見ると実は全国平均を下回っている。このまちに興味を持って人が来てくれるためには、動員数だけではなく、大地の芸術祭における「人との触れあい」によって「地元の景色を見てもらう」「いいところだと思ってもらう」のような「裏目的」を考えるべきだと思う。フジロックフェスティバルも現在は苗場で開催しているが、例えば那須高原に会場が移ったら人もそちらに動くと思う。</p>
熊倉委員長	<p>「ここでなければ」の理由が必要ということですね。</p>
南雲委員	<p>今回のような議論で忘れがちになる点として、「南魚沼市に生れた人に住み続けて欲しいのか」、「外から人を呼び込みたいのか」によって切り口が異なるということ。資料2を見ると、東京の魅力的な理由として「交通網が発達している」「仕事がある」などが高くなっているが、それぞれどういう人が答えているかも重要だと思う。性別や年代、職業によっても重視する項目が違ってくると思う。つまり、誰に働きかけるのかが重要だと思う。</p> <p>コンパクトシティの話があったが、数年前に南魚沼市に転居する際に一番心配したのは買い物の利便性であり、今住んでいる場所は、スーパー、本屋、理美容などがすべて歩いて行ける。東京圏の特に中高年の女性は車の運転をしない人が少なくないと思う。夫婦での移住を促進するのであれば、車を運転せずに日常生活ができることが重要。インターネットでバス時刻表を調べたら「これでは移住は難しい」と受け止められないようにする必要がある。そういう意味でもコンパクトシティは意味があると思う。</p> <p>先日、北陸新幹線の延伸によって新幹線の供用が開始された長野県の飯山駅に行ってきたが、駅前には大型スーパーなどの集客施設が整備されていた。集客施設がまとまっていることは、移住を考えている人たちに大きなアピールになる。</p>
岩佐委員	<p>二次交通は観光面でも大変重要だと思う。例えば六日町駅前には、人口比で見</p>

	<p>ると他の地方都市にはないくらいたくさんの飲み屋があり、若い人達が次々店を出している。今後インバウンドでたくさんの観光客が湯沢に来るとすると、二次交通でほくほく線や代替バスが夜間走っているというだけで、湯沢から二次会目的にたくさんの観光客が来てくれる可能性がある。十日町や小出からも来てくれる可能性がある。浦佐に企業が集積すればそこからも飲みに来る。新しいコミュニティを考える上で二次交通は大変重要だと思う。前回は話をしたが、岩手県の紫波町（しわちょう）という町は、盛岡市から在来線で約 20 分の距離にあり、盛岡市のベッドタウンとして駅前を中心に人口が増加している。多摩ニュータウンを現在（いま）風な田舎につくったようなイメージである。これは浦佐にも可能性があると思わせる事例である。浦佐はさらに約 20 分で六日町なので、二次交通として鉄道が 1 時間に 1 本程度確保できれば人は動くと思う。</p> <p>基幹産業の説明があったが、山、スキー、スノーボードなどと関わりが強い地域なので、例えば新潟には MSR（スノーシュー）や、スノーピーク（アウトドア用品）といった会社がある。自社の扱う製品を貸し出して八海山や越後駒ヶ岳、尾瀬などに行ってもらって拠点を作りたいと考えている企業はあると思う。湯沢にはモンベル、白馬にはパタゴニアなどいくつも拠点がある。そういうアウトドア企業の拠点を誘致することができれば、観光と山・スキー・スノーボードなどのアウトドアが密接につながると思う。</p>
熊倉委員長	<p>温泉、山、スポーツなど様々な観光要素の絞込み、生活者と観光客の双方に必要な二次交通の重点化方策という 2 つの課題が明確になったと思う。旧 3 町それぞれコンパクトシティの拠点としての性格はしっかりできているので旧 3 町それぞれの拠点をいかに結ぶかが重要だということですね。</p>
坂井委員	<p>先日、雪国観光圏の勉強会に参加し、「住んでよし、訪れてよし」の重要性を実感した。まずは住む人の利便性確保が重要であり、その利便性を観光客にも活用すべきだと思う。また、観光要素の絞込みも重要であるが、地域資源を洗い出し、ストーリーを作ることも重要だと思う。イベントごとでは継続が難しいので、いかに魅力を伝えるかを市民全体で考える必要があると思う。</p>
塚野委員	<p>観光業は基盤産業であり、今後も成長のポテンシャルがあると思うので、その際に二次交通は大変重要だと思う。駅を結ぶのはもちろんであるが、もっと来てもらいたい場所、集客力のある場所に人をいかに連れてくるかという発想も重要だと思う。鉄道だけでなくバスも含めて、特に湯沢まで来た日本人や外国人をもう一足伸ばして南魚沼市に来てもらうための手段が不足している。特に外国人は移動手段がないので、鉄道だけでは移動しにくい南魚沼市内の観光施設等にどのように連れてくるかが重要だと思う。</p> <p>例えば、主要な場所をめぐる巡回バスのコースづくりが資金的にも時間的にも取り組みやすいと思う。越後湯沢や十日町まで回るようなコースも考えられる。</p>
熊倉委員長	<p>高速道路をもっと活用してもよいと思うが、バスの高速道路走行についてはどうか。</p>
塚野委員	<p>（湯沢まで含めたこの地域では）冬季を除くと、高速も一般道も移動時間はあまり変わらない。</p>

熊倉委員長	<p>高速道路を首都高速のように使う事ができればいいと思うし、そうしないと高速道路の投資に対してもったいないと思う。場合によっては市民バスの高速道路走行について社会実験として総合戦略で出してもいいと思う。</p>
羽吹委員	<p>市民バスが今春再編されたが、外から来る人の利用のためには動いておらず、3地域に分けて、車の運転ができない高齢者の病院経由を主体に考えられている。タクシーもあまり利用されていない。湯沢に来た観光客を六日町の飲み屋に連れてくる話があったが、そこまでして来るかどうか、受入れる側の店の魅力を含めて検討する必要があると思う。観光協会では春と秋に観光用のバスを出しているが、十分な成果が得られているとはいえない。昨年、石川雲蝶の作品をめぐるツアーは毎回満員であったが、2年目はなかなか続かない状況にある。「一度行ったからもういい」という人も少なくないと思うので、それをいかに変えるかのアイデアも必要だと思う。</p> <p>これまで二次交通の議論は、外から単発的に来る人のことを中心にされている印象を持つが、この地域に住んでもらうためにはもっと違う視点で議論する必要があると思う。現状では、大きな移動は JR、地域間移動は南越後交通の路線バス、それより細かな地域内移動は市民バスとなっているが、運行時間などが利用者のニーズに合致しているかどうかは再編したばかりで分からない。通勤者、子ども、高齢者、観光客など、様々なニーズに合った運行の見直しを今後検討する必要があると思う。</p>
熊倉委員長	<p>今回の総合戦略でも PDCA サイクルによる見直しが求められている。見直しの習慣が当たり前になり、皆さんが本音で意見を出し合えるようになることが重要だと思う。</p>
樋口委員	<p>北里大学保健衛生専門学院では、学生へのサービスとして、費用はかなりかかるが、以前は有料であったシャトルバスを無料で回している。国際大学も同様な取組をしていると思うので、市民バス、北里大学、国際大学がそれぞれどのようにバスを運行しているのか、二次交通をトータルで考えることが大事。</p>
熊倉委員長	<p>北里大学や国際大学を含めた二次交通の現状について、次回会議には間に合わなくても、今後も必要になると思うので、事務局で全体的な整理をお願いしたい。できれば定住自立圏まで範囲を広げた形がよい。</p> <p>これまで、子育て支援、二次交通、基盤産業の活用などについて議論した。次に、起業・創業支援、事業継続などについて議論したい。</p>
塚野委員	<p>基盤産業の現状について、まずは資料を用意いただいた事務局に感謝したい。これにより現状がかなり見えてきた。</p> <p>さらに今後を考えると、現状の基盤産業の産業をさらに振興するのか、新たな産業を育成するのかの議論も必要だと思う。日本で今後成長が期待できる産業を誘致しようとする、物流やインフラなど川上・川下の産業がこの地域にあるのかを確認する必要がある。受け入れ側のこの地域の技術力や産業集積が、誘致する企業や産業の成長に対応できるのかの議論も必要だと思う。この地域において技術力のある企業群を集積することによって何ができるのかの洗い出しも必要だと思う。その洗い出しの作業は事務局をお願いしてあるので、この地域の中核</p>

	<p>となっている企業や、それらの今後の成長の可能性についても洗い出しをお願いしたい。これらの材料をそろえることでようやく本当の議論が始まる。</p>
熊倉委員長	<p>(産業相関図のような) 求められる作業を限られた期間の中で行い、さらにこの場で議論を重ねることは正直難しいと思う。金融の専門家の感覚として、さらに伸びる分野や育てるべき分野について率直に問題提起をお願いしたい。</p>
塚野委員	<p>農業、観光業のポテンシャルは間違いないと思う。建設業は通常、基盤産業になり得ないのであるが、事務局の資料にも記載があるとおり、高い技術力の域外輸出があつて、雇用者も多いことを考えると、延ばすべき部分があると思う。加えて、ゴム製品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業、プラスチック製品製造業なども市内に中核企業があると思われるので、延ばすべき部分があると思う。他は判断材料が不十分であるが、少なくとも今上げた業種は検討に値する。</p>
熊倉委員長	<p>建設業は、高校へのアプローチなど人づくりや若い人の就業などの政策が打たれていると思う。加えて、防災対策などは域外への技術移転の拠点になり得ると思う。資料を見ても東京都の最大の不安要素は「防災対策」となっている。</p>
羽吹委員	<p>建設業は絶対必要な業種であり、それを維持するためには仕事が必要だが、待っているだけではだめなので、災害については、これだけ整備しても平成 23 年の水害ではこの地域も大きな被害を受けたので、森林をしっかりと守る必要があると考えている。山を整備するためには人材が必要となるし、高齢化が進む中で技術の継承も重要となる。除雪も簡単に押しているように見えても実はかなりの技術が必要となる。新潟市とこの地域の除雪を比べればその違いは明らかである。それだけの除雪の技術力があるが、継承には時間がかかるので今から高校生の人材確保に取り組んでいる。</p>
坂井委員	<p>国土を支えるためにも建設業は必要だと思う。全体のまちづくりの中で稼ぐ力のある産業を見極める必要がある。</p>
熊倉委員長	<p>次に、クリエイティブクラスの人材について議論したい。</p>
岩佐委員	<p>呼び込む人の数や雇用者数などの「数」も重要であるが、呼び水となる人材も必要だと思う。アメリカなどではどういう人を呼び込めばまちが活性化するかという研究がされており、市の中で「クリエイティブクラス」を呼び込むことがまちの活性化につながると言われている。呼び水となる法人をいくつか入れていくことで連鎖反応が広がるということだと思う。</p> <p>日本では徳島県の神山町(かみやまちょう)でこれに近い状況が起きている。神山町では 2 年ほど前から流入人口が流出人口を上回っている。(実際は 2011 年に社会動態人口が増加に転じている。) その理由は、IT 系の企業というか個人を誘致したり、アーティストを誘致したりして、光ファイバー網の整備による産業創造などを図ったりしている。おもしろい会社が集まり、そこにおもしろい人達がお店をつくり、さらに人が集まるという好循環が起きている。そういう取組、つまり呼び込む人の「数」ではなく、どのような人を呼び込むかという議論をすべきだと思う。</p> <p>もう 1 点、考えなければならない点として、市民は「雪」をいかに克服するかという話になるが、もっと前向きに考えて、雪を「資産」として位置付ける必要</p>

	<p>があると思う。スノーボードをはじめて 10 数年になるが、南魚沼市は日本一のパウダースノーが楽しめる地域だと思う。白馬や北海道のニセコなどがパウダースノーとして外国人などに人気であるが、かぐらスキー場と八海山スキー場を合わせると日本で一番パウダースノー遭遇率が高い地域である。しかし今まで誰も PR していない。風向きでかぐらと八海山のどちらかはパウダースノーとなる。どちらもプリンスホテルが営業しており、シャトルバスで結ぶことにより必ずパウダースノーが滑れる。スキーは一般的に晴れの日には滑ることが多く、晴れるとこの地域の雪は重くなるが、雪が降っている時に滑るのがまたよい。今のスキーやスノーボードの主流は外国人も含めてパウダースノーである。この地域にそれだけのパウダースノーのスキー場があり、他にも良いスキー所があるので、そういう資産の活かし方もあると思う。</p>
熊倉委員長	<p>雪質について、事務局にデータ収集をお願いしたい。</p> <p>【事務局の調査状況】</p> <p>かぐらスキー場での経験もある八海山スキー場の支配人に伺ったところ、「この地域の気候は湯沢町の二居地区あたりで変わると言われている。かぐらは関東地方の気候の影響を受け、八海山は新潟地方の気候である場合、そういった事は起こり得るが、確率というところまでは会社にもデータがない。」とのこと。現在、スキー場のブログなどで当日の天候、雪質等の記載を拾う作業をしているが、毎日雪質が記載されている訳ではないため難航中。データを示せない可能性有。</p>
矢口委員	<p>日本人は雨や雪が降ると出かけないが、外国人は出かける。なぜならパウダースノーを狙うからという話を野沢温泉でも聞いた。</p>
高橋委員	<p>1月に六日町観光協会で「雪掘り応援団」という高齢者世帯などの道路の雪掘りや屋根の雪下ろしを行うツアーを取材したが、東京などからの参加者は、楽しい作業として1日経験して、みな生き生きとしていた。その後、雪掘りだけでなく何日か来てみたい、スキー以外も経験したいなど、雪国の生活に思いをはせてくれていた。</p>
藤ノ木委員	<p>人口ビジョンの実現を考えると、なぜ人口が減るのか、なぜ普通に生活して子どもを2人産めないのか、それは仕事がないこと、つまり経済活動がきちんとできないことが一番の課題だと思う。難しい課題であるが、(私は)東京で10年ほど生活して戻ってきたが、今の生活の方が幸せだと思う。</p> <p>東京にいる大学時代の友人が年数回遊びにくるが、なぜ同じところに何回も遊びに来るのかを考えると、私達という「ひと」に会いにくるのだと思う。そういうきっかけがあれば、ふるさとのない人呼び込めると思う。普通に生活できる幸せや自分にとってのふるさとを感じられれば人は減らないと思う。</p>
熊倉委員長	<p>藤ノ木委員もクリエイティブクラス、つまり呼び水となる人だと思う。</p> <p>女性が働きながら暮らし続けられる場所を当たり前につくることが原点だと思うし、働けていることの PR も重要だと思う。最後にもう一言ずつ意見をいただきたい。</p>
関副委員長	<p>教育面で言うと、地域の魅力を地域の人知らないという話があったが、それ</p>

	<p>に関して先日、塩沢中学校で外部講師として南魚沼市の魅力やどのような働き口があるかなどについて講演をしてきた。毎年2回程度講演している。生徒達に質問してみると、確かに地元の中学生在が地元を知らないと感じる。中学や高校で「自分達の住む地域を知る授業」がシステムとして定期的に行けるといいと思う。その場で、地域の人に話をしてもらえるといいと思う。</p> <p>「G1 サミット」という安倍総理をはじめ国会議員や有識者も数多く参加する会議があり、「日本をよくする100の行動」というものが公開されている。簡潔でとても分かりやすい。今後策定する南魚沼市総合戦略も例えば「南魚沼市をよくする20の行動」のような誰が見ても簡潔で分かりやすいものを市報などと一緒に配布して問題提起をして、その行動一つひとつに市議等を含めて数人規模の委員会をつくり、具体的な提言としてまとめていければ、具体的な実行に移しやすいと思う。</p>
岩佐委員	<p>農業と観光業を密接に結びつけることがこの地域のテーマだと思うし、自分も取り組みたい。農業はなかなか見えないが最終的には「味」であり、農業の「味」をキーワードとして観光に結び付けられればさらなる広がりが出てくると思う。イベントも農業と観光業を結びつければ波及効果大きい。</p>
大谷委員	<p>二次交通の議論があったが、六日町駅前に多くの若者がプライドを持って店を出している実態を若い子ども達に伝えて欲しい。まずは「知ること」だと思う。地域それぞれが自立しているので、他の地域のことを知らないのだと思う。「働き口」も本当はないのか、地域の企業の実状を正しく知る必要があると思う。地方創生は、東京の人に好かれるまちになるのではなく、とにかく市民が住みたくなるまちが第一だと思う。そしてこの会議のように市民がどんどん声を出せるようになればよいと思う。</p>
坂井委員	<p>農業と宿泊業を伸ばすべきだと思うし、多様な資源や活動する人を結びつけることによって、非基盤産業も一緒に伸びていくと思う。</p>
高橋委員	<p>(自分は)東京から南魚沼市に戻ってきて1年間くらいは東京に戻りたいと思った。それが変わったのは、ボランティアなど仕事以外で地域の人と話す機会が増えたことである。「地域との仕事以外のつながり」も目指すべきことだと思う。</p>
武井委員	<p>北里大学と国際大学を合わせると毎年500名くらいの新入生が全国や海外から来ている。これは市人口の約1%に該当する。これら北里大学や国際大学の卒業生を南魚沼市のファンとして根付かせることが重要だと思う。</p>
塚野委員	<p>総合戦略の策定スケジュールを見ると、次回が最終会議でそこでは総合戦略の最終形が出来上がる予定となっている。これまでの議論でポイントは出たけれども、それを戦略として形にするためにはいくつかのステップを踏む必要があると思う。しかし、「まち」「ひと」「しごと」が一気通貫で整合する形で戦略を作り上げるための議論はまだ前段階という認識であり、委員として危機感を抱いている。今後の進め方について後で教えて欲しい。</p>
樋口委員	<p>3点ほど述べたい。</p> <p>1点目は、中学生の娘が高校のオープンスクールに行ってきた。その時に南魚沼市出身の在校生が話をしてくれたが、第一声として「南魚沼市が新潟県で一番</p>

	<p>学力が低いところですよ」と言っていた。事実なのか単なる都市伝説なのか、これが地域の子も達が勉強しないことの免罪符になってしまうことが懸念されるし、外部に向けてそういう発言をさせてしまった我々大人達の責任を感じた。</p> <p>2点目は、南魚沼市外から若者が多く集まる北里大学保健衛生専門学院の学生（医療従事者）をいかに地域につなぎとめるかについて、医療再編に併せて検討することも必要だと思う。</p> <p>3点目は、情報提供。国は地方創生のための大都市圏への学生集中是正方策として、大都市圏の大学等における入学定員超過の適正化に向けた施策を打ち出した。これは定員を大きく超過して学生を入学させた大学については補助金を減額するというものであるが、これを受けて一部の大学ではあらかじめ定員を増やす動きが出ているようであり、地方創生の難しさを感じる事例である。</p>
羽吹委員	<p>総合戦略の方向性について。「しごと」については、農業、宿泊業で働く地元の人はい多くないと思うので、きちんと調べた方がいいと思し、地元のこのような業種で働くことの喜びを子ども達に教えることも重要だと思う。様々な情報がある中で、「カッコいい仕事」が好まれる傾向にあると思うが、本当の仕事のよさをきちんと伝えることができれば地元に残ってくれると思う。学校や家庭における地元の仕事のよさの伝え方を見直すべきだと思う。親の言葉は子どもに強く伝わる。農業であれば日本一のコシヒカリを作っているのだから、その自信や喜びをきちんと伝えられれば子ども達はもっと残ると思う。</p> <p>「ひと」についても、この地域のよさを子ども達にいかに伝えるかを具体的に考えるべきだと思う。それが伝わればおのずと「まち」もよくなると思う。まずはこの地域の子も達を育てて残ってもらい、その次に外から人を呼び込むことを考えるべきだと思う。</p>
南雲委員	<p>この地域で生まれ育った人が残ることが大切。20代前半くらいで多くの方は自分の暮らす場所を決めると思うが、十分な情報にもとづいて決める人は少ないのではないかと。南魚沼市の住みやすさ、生活のしやすさを正確にきちんと学ぶプログラムが必要。</p>
井口市長	<p>学力の話が出たが、それは間違いである。新潟県の小・中学生の平均的学力は全国の中位、本市は新潟県の中位である。</p>
熊倉委員長	<p>作られた都市伝説の払拭も重要な視点だと思う。</p> <p>塚野委員の提案は大変重要であるが、国の求めるスケジュールもあり、事務局もこれまでの議論を受けて総合戦略の柱を作りはじめているので、今後もやり取りしながら作業を進めていることを理解して欲しい。また、総合戦略は「作って、これで終わり」ではなく、活動しながら常に改善していくもの。次回の最終会議で提示するものは、総合戦略の初版ということで理解して欲しい。</p>

③総合戦略の策定スケジュールについて

(事務局)

資料3(第2次南魚沼市総合計画及び地方版総合戦略等の策定スケジュール)に基づき説明。

(次回の推進会議は10月26日(月)午後1:30～南魚沼市役所大会議室)

4.閉 会

(関副委員長)

ここで出た意見が具体的な行動に結びつかなければ意味がないと思う。

議論が尽くされたとは言えないかもしれないが、我々に与えられた時間を精一杯使って、南魚沼市を少しでもよくできるように尽力することをお願いしたい。

12 : 00 閉会